

あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-6100

FAX 0551-25-6103

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



韮崎駅イルミネーション ～たなばたさま～

『感謝』

社会福祉法人信和会 評議員

横 森 潔



昭和61年3月、私は東海大学体育学部を卒業し、地元山梨に戻ってきました。幼い頃から父親の影響もあって、サッカーに勤しみ暇さえあればサッカーボールを追い回した少年期、特段将来の「夢」なんていう大それたことは考えたこともなく、韮崎市というサッカーが盛んな地域で大勢の仲間たちと共に朝早くから、夕方暗くなるまでスポーツ少年団の練習に明け暮れていました。いつしか「自分はサッカーが好きなんだ」という感情が芽生え、中学生の後半辺りからおぼろげながら「体育教師」を志すようになったと記憶しています。サッカーが好きだけで教師を目指すなんていう発想は、とても幼稚な考えであるのですが、当時の横森少年はなれると信じて疑いませんでした。

教師を志そうという友人たちは学校の授業はもとより大学入試を目指して日々の学習にも真剣に向き合うのがあたりまえでした。そうです、教師になるには大学に行って教員免許を取得する必要があったのです。しかし、私は勉強が嫌いで、大学入試を受験するほどの学力は持ち合わせていませんでしたので、勝手な思い込みは潰えるかと思いましたが、高校時代学力またはスポーツでの実績応じて「推薦入学」というシステムがあることを知りました。自分の好きなスポーツを必死に頑張り、大学側が認める実績があれば入学できるなんて、夢のような話でした。ただ何となく「先生になりたい」と甘く考えていた自分にとって、少しずつ現実的に考える手立てや道筋が見えてきました。

高校生の自分は、担任から「お前の成績では一般入試は無理だから、推薦を狙え」との助言をいただき、部活動に精励努力しながら学校生活において、生活指導上の問題も起こさない事と念を押されました。おかげさまで同級生がみな必死に受験勉強に追われるさ中の12月初旬には推薦入試合格内定の通知をいただき、高校最後の大会での結果を出すことに傾注できました。自分が自分のために頑張るのは当然ですが、その時良い指導者と、良い仲間に出会えるかどうかということも、人生においては大きなポイントであったと思います。

首都圏の私立大学に通わせてもらうことで、多額の経済的な負担をかけてしまった両親には、教師となって夢を実現することだけが恩返しと信じていましたが、大学

卒業の年に「かいじ国体」が開催されたことを受けて、当該年度の教員採用がなくなったことは残念な出来事でした。国体のための補強的採用により、県教委から、向こう5年間は採用の見通しが無いとの意向も示され、やむなく「夢」を諦めました。

教員になることだけを信じ、他の職種への気持ちの切り換えもままならなかった私に一筋に光を与えてくれたのが、現信和会会長の栗原信雄氏でした。長年私の父と親交が深く父から私の進路についての相談が持ち掛けられた際、「穴山に東京都の施設を作るから、やってみるか？」との誘いがありました。正直、福祉関係の仕事には全く知識も経験もなく不安でしかありませんでしたが、思い切ってお世話になることにしました。就職するにあたっては、『山梨大学に特殊教育特別専攻科というコースがある。1年間研修のつもりで行って来い。』とお許しもいただき、障害者への予備知識を備える機会も与えていただきました。「穴山の里」における利用者の方々との出会いは、現職の自分への大きな変革の一步となりました。

「穴山の里」には5年間お世話になりました。社会人としての職への向き合い方や、人への接し方など、特別支援学校の教師となった私の礎を叩き込んでいただいた職場です。

進路に窮していた私に救いの手を差し伸べていただいた、栗原氏に転職の意を伝えた際にも「やってみやあいい。だめだったらそのまま続けりゃいいだから。」と、背中を押されたことも大きな力となりました。とはいえそんな温情に甘えることはできないと、必死に勉強しました。私の人生であんなに勉強に向き合ったことがないほどでした。幸いなことに平成5年度正式採用となり、今日まで、29年間教師を続けてくることができました。

当初描いていた「中学校の体育教師」ではありませんが、教師になるという夢を実現できたことに喜びを感じ、これまで支えてくれた多くの方々に感謝します。定年退職まで4年余りとなり、第2の人生も見据えながら、自分が受けてきた温情や愛情を、身近な人や地域に返せるよう微力ながら尽くしていきたいと思っております。終わりに、信和会の益々のご発展とご繁栄をお祈りし終筆といたします。乱筆乱文お許しください。

本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL:0551-25-6100
E-mail: honbu@sip-shinwakai.jp



理事会・評議員会報告

- 開催日：理事会：令和2年6月19日（金）＊書面承認
評議員会：令和2年6月26日（金）＊書面承認
- 開催方法：理事、監事、評議員の方の同意、確認受諾
- 審議事項：第1号議案 令和元年度事業報告
第2号議案 令和元年度決算報告
第3号議案 令和元年度監事監査報告
第4号議案 資金積立及び土地購入など事業報告



令和2年度第1回の理事会・評議員会は、3月の理事会・評議員会同様、「新型コロナウイルス感染症」の拡大防止のため、役員の方のご参加は自粛してもらい、上記審議事項につき役員全員の方の同意書、確認書に署名捺印をいただき、異議のないことを確認することで、理事会・評議員会が成立いたしました。

監事様におかれましては、自粛の状況ではありましたが、当施設に来ていただき決算状況及び証明書確認、事業状況の確認など実施していただきました。

今回の決算におきましては、鳳凰会館の建設費等昨年度の積み立ても当てて、当初の予定通りプラス決算となりました。本年度6月の賞与分の積み上げも行い安定した資金収支となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大予防策や面会実施への配慮など、「新たな生活様式」に対応した運営の見直しを行っているところであり、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

法人単位貸借対照表
令和2年3月31日現在

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	788,078,524	771,055,509	17,023,015	流動負債	103,608,718	41,589,792	62,018,926
固定資産	1,563,685,142	1,497,961,375	65,723,767	固定負債	147,899,890	173,050,860	-25,150,970
基本財産	1,062,570,244	951,413,840	111,156,404	負債の部合計	251,508,608	214,640,652	36,867,956
その他の固定資産	501,114,898	546,547,535	-45,432,637	純 資 産 の 部			
				基本金	226,532,898	226,532,898	
				国庫補助金等特別積立金	289,967,055	308,729,863	-18,762,808
				その他の積立金	113,000,000	178,447,000	-65,447,000
				次期繰越活動増減差額	1,470,755,105	1,340,666,471	130,088,634
				次期繰越活動増減差額 (うち当期活動増減差額)	1,470,755,105	1,340,666,471	130,088,634
					64,641,634	173,356,251	-108,714,617
				純資産の部合計	2,100,255,058	2,054,376,232	45,878,826
資産の部合計	2,351,763,666	2,269,016,884	82,746,782	負債及び純資産の部合計	2,351,763,666	2,269,016,884	82,746,782

法人単位事業活動計算書
(自)平成31年4月1日(至)令和2年3月31日

	当年度決算(A)	前年度決算(B)
サービス活動収益計(1)	859,666,159	890,104,603
サービス活動費用計(2)	791,301,407	716,138,174
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	68,364,752	173,966,429
サービス活動外収益計(4)	3,663,572	3,836,511
サービス活動外費用計(5)	4,927,457	5,374,283
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	-1,263,885	-1,537,772
経常増減差額(7)=(3)+(6)	67,100,867	172,428,657
特別収益計(8)	4,052,000	1,030,209
特別費用計(9)	6,511,233	102,615
特別増減差額(10)=(8)-(9)	-2,459,233	927,594
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	64,641,634	173,356,251
前期繰越活動増減差額(12)	1,340,666,471	1,233,757,220
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,405,308,105	1,407,113,471
基本金取崩額(14)		
その他の積立金取崩額(15)	67,447,000	
その他の積立金積立額(16)	2,000,000	66,447,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,470,755,105	1,340,666,471

法人単位資金収支計算書
(自)平成31年4月1日(至)令和2年3月31日

勘定科目	決算(B)
事業活動収入計(1)	863,329,731
事業活動支出計(2)	668,869,425
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	194,460,306
施設整備等収入計(4)	4,052,000
施設整備等支出計(5)	180,874,088
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-176,822,088
その他の活動による収入計(7)	1,264,150
その他の活動支出計(8)	5,663,530
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-4,399,380
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	13,238,838
前期末支払資金残高(12)	753,741,717
当期末支払資金残高(11)+(12)	766,980,555

穴山の里

障害者支援施設 穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164
Tel:0551-25-5900
E-mail : sato@sip-shinwakai.jp



阿原頭堤と信玄桜



堤の周囲に12本植樹しました



阿原頭堤の水面

穴山の里環境班では、将来、池の周りを公園に整備すべく、桜の木12本を植栽しました。この桜の原種は「太白」と言い100年前にイギリスに渡りました。その後、日本にこの種の桜が絶えてしまい里帰りしたのですが、原種と少し異なるとのことで、「山梨桜の会」が改めて「信玄桜」と命名し、純白で大輪、見栄えのする種で甲府城にも植栽されました。

文責：栗原 信雄

地域奉仕活動

4月下旬、地域交流センター鳳凰会館周辺に「信玄桜10本、どんぐり40本」。5月上旬に「ドウダンツツジ20本、シャガ6株、シャクナゲ2株」を植栽しました。大きくなるのが楽しみです。



5月初旬、いつも 利用させていただいている、旧穴山小学校のグラウンド及び穴山町ふれあいホール周辺の草刈り及び清掃作業を行いました。



側溝の清掃

5月中旬に地域の清掃奉仕活動として穴山町の石水地区、伊藤窪地区の側溝周辺の清掃を行いました。



6月21日、穴山町次第窪地内で、縄文プロジェクト-ふるさとの風土を次世代に-“花の谷造り”の一環である「ヒガンバナの植え付け」を、緑と大地の会の方々と行いました。今年で3年目です。

コロナウイルス対策

猛威を振るっている、新型コロナウイルスの感染防止のため、各方面からの指導に従いマニュアル化し徹底を図っています。又、あらゆる場面で密を避けるよう、対策を講じております。



パーティションで安心です

緊急事態宣言が発令され、食堂内では対面を避けるため、横並びで食事を摂っていました。解除後はパーティションを設置して、皆で楽しく食事が出来るようになりました。



5月7日、外出等の自粛により、利用者さんのストレスが溜まってきましたので、少しでも発散ができるようにと、グラウンドで「ミニ運動会」を行いました。久しぶりに身体を思いっきり動かし、おいしいお弁当も食べ、皆さんから笑顔がこぼれていました。



6月15日、19日、23日 3グループに分かれ、今年度初となる外出をしました。南アルプス市の観光農園でのサクランボ狩りです。赤い宝石は甘酸っぱくて、とてもおいしかったです。



穴山の杜

特別養護老人ホーム穴山の杜
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL0551-25-6100
E-mail : mori@sip-shinwakai.jp



今、30歳代の兄弟4人による東京大衆歌謡楽団が、高年層の方々にしずかなブームとなっております。主に上野浅草を中心とした路上ライブ活動ですが、最近ではほとんど聞かれなくなった昭和初期から戦後の歌謡曲の演奏が、昔懐かしむ多くの人たちに感動を与えているようです。若者を中心とした音楽が全盛ですが、戦前戦後を苦しみながら必死に働き過ごしてきた年代の人たちが、この苦しい時代の音楽に自らの人生を重ね合わせて、手拍子や体を動かして楽しんでいる光景を見ると微笑ましく感じます。

施設でも1週間に1回ほど入居者の皆様にカラオケを楽しんでいただいておりますが、歌うより専ら聞くだけの会ですが若かりし頃の歌が流れるとしげんと歌詞を思い出して口ずさみ始めます。若いときの記憶は老齢になっても、しっかりと記憶されていることに感心させられます。



10年を振り返ると共に…

介護部主任 小尾美香

私は10年前、知り合いに「いいところがあるよ、おいで」と声をかけていただきました。当時、老人保健施設で働いていましたが、正規雇用ではなかったため、正規職員で働いてみたいと思いを伝え、入職させていただきました。ユニット型特養で少人数でのケアだったので、多床型で働いていた私にとっては少し物足りなさを感じましたが、家庭的な雰囲気の中で仕事を覚えていく内に、一人一人に寄り添ったケアが何よりも大事なことではないかと思えるようになりました。少人数と言っても色々な方がいる為、対応の仕方は様々で、悩んだり楽しかったり嫌になったりしましたが、何とか辞めずにこられたのは、一緒に働く職員に恵まれていたことと、少なからず同じ思いで働く仲間や上司がいたことではないかと思えます。また、施設内外の研修に参加することで多くのことを学ばせていただきました。働き始めて4年ほどし、当時の上司にユニットケアの研修に行ってみないかと声をかけていただき、一からユニットケアを学んだことで、さらにユニットケアへの意欲が増し、学んだ仲間とユニット職員とで試行錯誤しながら、ユニットケアを進めていったことは、今まで働いてきた中で一番充実した日々だったのではないかと懐かしく感じられます。当時と比べると個別ケアやユニットケアなど、かなり進んでいます。特に排泄ケアは、個々に合わせた対応となっている為、当施設の強みではないかと思えます。これからもより家庭的なケアを目指して、利用者に安心してくつろげる場を提供出来るよう誠心誠意仕事に励んでいきたいと思えます。

名言名句から学ぶ

我が感性を磨く

【解釈】

外界の刺激に応じて感覚・知覚を生ずる感覚器官の感受性（感性豊か）

【心得】

趣味でも習い事でも極めるまでやり通すことから始まる。趣味を多く持とう。



願いが叶いますように…

鶴フロアにて、施設前の笹を使用し、七夕飾りをしました。「百歳まで頑張ります」「みんなに会いたい」「願い事がありすぎて混乱しています」など、利用者それぞれの願いを短冊に込めました。

5月11日より、テレビモニターによる面会が始まりました。1月初旬より感染対策により面会が出来ない状態が長く続き、ご家族・ご利用者の不安やストレスをどうにか解消できないか、施設でも試行錯誤を重ね、画面越しではありますが、面会を再開することが出来ました。

テレビモニターによる面会の試み

面会に来られたご家族から、「お母さん！長く会えなくて、顔を忘れちゃったかしら？娘の〇〇だよ。」と呼びかけられて、ニコリと笑顔を見せるご利用者や、「久しぶりに元気な顔が見られた！嬉しい」と涙ぐんで喜ばれるご家族の姿に、こちらも嬉しい気持ちでいっぱいになりました。



わ〜く 穴山の里

多機能型事業所 わ〜く穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
Tel : 0551-25-5866
E-mail : work@sip-shinwakai.jp



新しいライフスタイルに向けて

コロナウィルスの影響により、活動の多くを自粛してきましたが、次のステップに向けて「感染症対策ガイドライン」を作成し、新たな生活様式の中で利用される皆様には、今まで以上にいきいきと作業や活動に取り組むことのできる環境設定とサービス提供をしております。



適切な距離を考慮した
レイアウトと毎日の事業所内消毒



検温の実施



消毒



〜換気を行い、3密を避けながらの作業や活動の実施〜

女同生活事業所

共同生活事業所 (わ〜く穴山の里内)
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
Tel : 0551-25-5866



§ 新しい生活スタイルで §

新型コロナウイルスの影響で自粛していましたが、様々な活動を<感染予防ガイドライン>に沿って行ってまいります。新しい生活スタイルに向けて継続していくこと、新しく変わっていくことを利用者の皆さんに伝えていながらより良い生活が送れるようにしていきます。



外出に向けた感染予防勉強会



外出先店舗の消毒液等事前調査も実施 ⇒

規則正しい生活と免疫力アップ



ラジオ体操と長年続けている散歩



ケアホーム宿尻の食事風景

手洗い・消毒・適切な距離・換気・会話少なめに

穴山の杜シヨート

穴山の杜 短期入所生活介護事業所
〒407-0263 韮崎市穴山町 4410-3
TEL : 0551-25-0800



『 角界から介護職へ 』

介護士 丸茂 昭二



私は親方から勧誘を受け、16歳で片男波（かたおなみ）部屋へ入門しました。親から離れての初めての生活、上下関係の厳しさに翻弄され耐え切れず、幾度となく山梨へ帰ろうと考えたのを今でも覚えています。その気持ちを留めさせてくれたのは家族であり、応援して下さいている方々の思いを知ることでした。励ましもあり、辛いことと向き合う気持ち、この世界で全うするという強い気持ちになり、19年間現役を続けることができました。

成績は上位まで上がることはできませんでしたが、成績以上に大事なものを相撲界から得ることができました。それは相手を思いやる気持ちでした。相撲は一人ではとれません。相手がいてこそ相撲が成立するのです。相手に対して敬う気持ち、そして日々感謝する心は、決して忘れてはならないという教えでした。

現役中、私は特別養護老人ホームやさまざまな施設へ慰問させていただくことがあり、利用者握手をすると泣いて喜ばれ、「元気になるよ、長生きできるよ、有難う」と声を聞くことにより、この方々の役に立ちたいと思い、介護の仕事にも興味を持つようになりました。3・11東日本大震災の際は、相撲部屋のOBからの誘いもあり、宮城県気仙沼市の避難所でちゃんこ鍋の炊き出しを1ヶ月行いました。その時にも「温かい物が食べられて幸せです、本当に助かります」と多くの声を耳にしました。また、被災現場を目の当たりにし避難された方の話を聞くと、普段の何気ない生活が本当に幸せなんだと改めて実感できた時間でした。その経験もあり、人の生きる力の手助けになりたいと思い、介護職に就きました。

介護現場では利用者にどうしたら喜んで貰えるだろう、どうしたら安心して過ごしていただけるだろうと、日々考え業務にあたるよう心掛けています。まだまだ手探り状態ですが、これからも職員同士助け合い、皆で邁進し、施設向上を目指して頑張っていきたいと思ひます。



毎月行っているおやつ作り。4月には露店商顔負けのチョコバナナ、5月には山から採取した旬のヨモギを使ってのおまんじゅう、6月にはご飯をつぶして五平餅を作りました。皆さん生き生きとして調理していました。もちろん味はどれも very good でした。



♪笹の葉さ～らさら～♪
どんなお願いごとを書こうかなあ～と悩みながらペンを走らせました。天の川☆が見えるといいですが、予報では雨模様です。



おやつ作り



母の日・父の日

今年は感染防止で面会自粛中でしたので、ご家族に代わってスタッフが日頃の感謝を込めて手作りの花とメッセージカードを渡しました。"いつもありがとう"

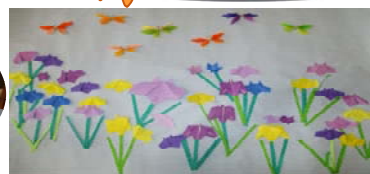


非常用通路

ベランダに出入り口とスロープを設置し、新たに避難経路を設けました。スロープを使っての避難訓練も行い、これまで以上に移動がスムーズにできました。



余暇活動



季節に合わせて折り紙でアヤメやアジサイなどの花を折り、貼り絵を作りました。手に取る好みの色の折り紙もまちまちで、組み合わせも一人一人違っており、とっても個性が出ていました。早速施設前の道路の展示スペースに飾りました。一気に道が明るくなったように見えました。



感謝録

(令和2年3月16日から令和2年6月15日)

～ご寄付を頂きました～ (敬称略)
ありがとうございました。感謝いたします。

五十嵐みさ・岡野チヅ子・柴田正雄・馬場幸福子・
山本洋一・富田武男・五十嵐みさ・金井利枝子・輿石英明
細田太満美・石原文世・内藤まゆみ・橘田禮子



《夏祭り開催中止》

毎年8月上旬に開催しております「地域ふれあい夏まつり」は、新型コロナウイルス感染防止の為、**開催を中止**いたします。

お祭りを楽しみにお待ちいただいている皆様には大変申し訳なく存じますが、皆様の健康と安心・安全のために、どうかご理解いただけますようお願い申し上げます。

実行委員会



新型コロナウイルス感染症に係る 社会福祉法人信和会職員の行動指針

県内外において、高齢者施設、事業所等でも感染確認がされている現在、万が一にも当事業所の中で集団感染(クラスター)が発生した場合には、もはや打つ手はないとさえ思えます。まさに私たちの足下まで忍び寄っていると考えて間違いありません。

わが国では、法的な根拠が無いことから、国や自治体において、市民の行動を制限するには至っておりませんが、私たち福祉施設においては、ご利用いただいている障害者やお年寄りの暮らしや大切な命を守っていく責任があります。そして併せて、働く職員の皆様と、そのご家族様の健康な生活を守らなければなりません。

そこで、信和会としては、共に働く職員の皆様が、お互いに安心して業務に従事できるよう、「行動指針」を策定いたしました。

基本的な考え方

- 施設を利用される障害者やお年寄りの、健康と大切な命を守るために
- ご利用されている方のご家族や地域の方の、信頼と安心を守るために
- 感染者及び濃厚接触者等の、人権や個人のプライバシーを守るために



各事業所においても前述の報告の通り、新たな生活様式を念頭に試行錯誤しながら、支援・介護を継続しています。

緊急事態宣言が解除されましたが、有効なワクチンや治療薬ができるまでは、引き続き感染防止に取り組む必要があります。外出自粛が緩和され、人の移動が増えると再び感染が拡大する可能性があり、第2波に備えて環境を整え、計画的な備蓄などを進めています。

社会・経済を維持するためには、私達一人ひとりが感染予防に努め、社会全体で感染拡大防止に取り組むことが重要です。厚生労働省から、新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言を踏まえ、今後、日常生活の中で取り入れていただきたい実践例が示されました。感染拡大を防止するため、「新しい生活様式」を一人ひとりが実践し、日常生活に取り入れていきましょう。
『感染予防策のピクトグラム出典：厚生労働省 HP より』



編集後記

覚悟はしていたものの、4か月以上にも及ぶ自粛生活の閉そく感やストレスは結構こたえます。テイクアウトの利用や近場での気分転換で乗り切っては来ました。幸いなことに法人事業として、内部感染者の発生のないこともあり、各施設運営にも大きな影響は出ておりません。しかしながら、感染予防グッズなどは、関係官公庁よりのご寄付もあり、ある程度の在庫確保はできておりますが、使い捨て手袋など一部の備品については、モノ不足が続いております。

医療関係者の方や直接事業や生活に影響を受けて厳しい状況に置かれている方のことを考えると、一刻も早い収束を達成できるように、個人でできること、みんなで協力してできること、それぞれ考えながら行動していきたいと思えます。
(T・F)